

会員随時募集中!

会員の皆様は、2016年度の会費納入をよろしくお願いいたします。

入会案内

いつでも、どなたでも入会できます。

入会申込書にご記入の上、メールにファイルを添付して下記のアドレスへ送信してください。

入会申込書送付先 → yhukusim@iwate-pu.ac.jp

入会申込書はこちらからダウンロードできます。

<http://www.geocities.jp/iwatesisyunki/index.html>

いわて思春期研究会

検索

※FAXや郵送でも受け付けます。事務局宛にお送りください。

年会費

一般会員 3,000 円

学生会員 500 円

賛助会員 1口 10,000円 (何口でも結構です)

納入方法：郵便局に備え付けてある郵便振込用紙、または当研究会が作成した振込用紙にてお振込みください。

口座番号：02200-9-116595

加入者名：いわて思春期研究会

研究会事務局

〒020-0107 岩手県盛岡市松園2-2-6

臼井循環器呼吸器内科内

「いわて思春期研究会」事務局

FAX 019-663-3633

研究会HP <http://www.geocities.jp/iwatesisyunki/index.html>

いわて思春期研究会ニュースレター

2016年5月号

発行元：〒020-0107 岩手県盛岡市松園 2-2-6 臼井循環器呼吸器内科内「いわて思春期研究会」事務局

FAX 019-663-3633

2016年度いわて思春期研究会総会・特別講演会が開かれます

日時：2016年6月26日(日) 12時30分～16時

場所：岩手県医師会館 3階 視聴覚室

岩手県盛岡市菜園2丁目8番20号 TEL 019-651-1455

平成28年度の総会・研修会が、上記の日程で開かれます。会員の皆様には、すでに案内と出席確認のはがきが届いていることと思います。お誘いあわせの上、たくさんのご参加をお待ちしております。研修会の内容は以下の通りです。

<プログラム>

12:30-13:00 総会

13:30-16:00 研修会

テーマ「ネットの問題点を知り、安全対策を考えよう！」

開会 挨拶 (小林高会長) (13時30分～13時35分)

講演 「ネットに関する危険性と安全対策」(13時35分～15時)

公益財団法人 岩手県青少年育成県民会議

専門職員 能登谷 拓 氏

自由討論 (15時10分～16時)

「地域・家庭・学校での対応は？」

コメンテーター：公益財団法人 岩手県青少年育成県民会議

専門職員 能登谷 拓 氏

16:00 閉会



～会員外の方のご参加については、事前連絡無しでも結構です～



【今の子ども達の乳幼児期に何が起こっていたのか？】

親の影響により睡眠時間や規則正しい食生活の乱れ、情緒的接触や交流が少ない、感情制御が困難になりやすいなどがあり、加えて、泣かない子、指示に従う子、手の係らない子、大人しい子など親にとって良い子を期待される。

本来、子どもは、痛い時に泣く、わかってもらえない時に泣くなどし、自分の気持ちを伝えようしたり、判断が妥当か等の判断をするものだが、それができないと脳の発達に影響を及ぼす。このことにより、発達障害様になり、キレたり逃げたり問題を起すようになる。

子どもは手を掛けてもらって成長し、守ってもらって安定し、愛情を掛けてもらって優しさを実感できるが、今の子どもは幼いころから「自分の気持ち・思い」を問いかけていない、経験していないから自分の思いを人に伝えることが苦手である。

【いじめの構造】

いじめは、「ケンカ」とは異なり何ら理由がないのに、集団から暴言、暴力、無視、仲間はずれなどを陰湿、かつ執拗に続けられるものである。

「いじめは集団には必ず存在すると認識」することが大切で、大人にもある。しかし、大人は配置転換や、転職など救済方法が用意されている。子どもたちの世界で起こったらどうするのかイメージすることが大切。

学校側がいじめの相談を受けて、黙っていると云ったにもかかわらず、相手呼んで謝らせたり、仲直り作戦をするなどはやってはいけない。不信感や次のいじめに繋がる場合がある。いじめの子は内面的に満たされない状況にあり、いじめはいじめの子にとっても援助を求めるサインである。

いじめられている子から申し出があったら、話してくれたことを評価し、本人がどのような事を感じているかに注目し話を聞き、本人の意思・考えを尊重、体調や元気を確認する。この際遊びがひとつのパロメーターである。室内で遊べる、屋外で遊べる、誰かと遊べる、1人でも遊べる、楽しめている、気が抜けているなど。

【いじめの構造を変化させるには】

具体的に集団の関係性を改善し、雰囲気を変えることが重要。いじめられている子の安全を優先する。クラスでは担任が主導を持って「席替え」を頻回に行う。いじめている子といじめられている子、仲間の席を離す。いじめられている子に席替えの希望を聞く。大人が、「いじめ」の問題を認識し、解決策を模索している姿を見せる。保護者が時々学校に行くことも効果的。

2016年1月31日(日) 13:00~16:00 に岩手医師会館において岩手思春期研究会の研修会が開かれました。いたましい中学生のいじめによる自殺という問題について、子ども達の置かれている現状や社会背景、いじめの構造といった切り口からすずきひろこ心理療法研究室室長の鈴木廣子先生からご講義いただき、その後参加者同士のディスカッションも行われました。背景や構造を理解した上で、「大人として」私たちに何ができるかを考えさせられる貴重な時間となりました。



講演

「思春期のころ ~いじめと自殺~」

情報交換 「いじめと自殺への対応」

講師・コメンテーター すずきひろこ心理療法研究室 室長

鈴木 廣子先生

【大人には何ができるか】

- ・子どもを心から心配することが出来る
- ・心から愛することが出来る
- ・一緒に悲しむこと、苦しむこと、泣くことが出来る
- ・子どもが掛け替えのない存在であることを知っている
- ・子どもが好きな食べ物を作ることが出来る
- ・子どもの傍にすることが出来る
- ・子どもを守ること、見守ることが出来る

【今どきの小中高生の現状と学校・社会的背景】

いじめられないために「かぶらない」「目立たない」「違わない」という三原則や、弱音を吐けないなど同世代との関係成立の困難さがある。少子化の影響で子供への期待の高まり、親の不安定さと無関心さなど親子関係の変化、親からの自立の困難さがある。携帯やインターネットの普及により、人間関係の変化(会話の変化、情感がない)、学校内からネットへいじめの内容が変わってきた。面と向かって話すことを回避する傾向。携帯への依存。親子共々の経験不足から来る学校の負担増、学校安全神話の崩壊。

【子どもが自殺を考えたとき】

自分の存在価値を否定される経験をしたとき、生まれてきた意味がわからなくなったとき、生きている意味を喪失したとき、周囲に迷惑をかけている存在と感じたとき、どんなに努力しても周囲から疎外される理由がわからないときやこの状況から逃れられないと思ったときなど。

自殺を決意した子どもは、予測不能な場合もあるが、表情がない、好物も食べない、眠れない、朝起きられない、好きなことをしなくなる、一人になりたがる、元気がない、イライラ、不機嫌、成績が下がる、友人と交流をしない、学校関係のことを話したくない、登校渋り、投げやりになる等サインを出している場合もある。

【グループ討議から・・・】

- ・身近な子が自殺したこともあり重かった
- ・すごく重たい。学校に保護者が入るといいと思った。効果があったと聞いている
- ・ヘルスカウンセリングの中で活かせることがあればと参加した
- ・4年生を境に子供たちも家族への対応が変化(急にしゃべらなくなる)
- ・大人がその子を知らず評価しているせいかな？
→ 「そう思ったのね。」と返せる大人が増えたら・・・と思う
- ・親が聞いてあげる能力が無くなってきたのか？(スマホを使用する母)
- ・デジタル化された社会でも情緒的なやりとりが大切だと思う
- ・子どもの問題 → 親から受け継いでいる事も多いと思う・・・いつどこで連鎖を止められるか
- ・良い子でなくてよい